

THE STUDY OF ISE

春・夏・秋・冬



信仰の息づく街を歩く

はじめに

神道巡礼の地を抱く伊勢には日本有数の自然・文化遺産がある。最も由緒ある神社であり、日本の精神性の神髄とも言える伊勢神宮が有名だが、それだけではない。たくさんの隠れた伊勢の魅力に出会うには知的好奇心が欠かせない。この町の路地を歩き、神社に訪れ、お祭りに参加し、お店で食事をし、この地ならではのお店に足を運べば、神話が息づく別世界の扉が開く。神々への信仰、美食、伝統工芸……。四季と出合いを通じて、珠玉の伊勢を探しに行こう。

道中では、伊勢の神社を訪れ、季節ごとに特色あるお祭りに参加し、日本の精神性にふれる散策に繰り出そう。散策後にお腹がぺこぺこになっても大丈夫。シンプルでありながら滋味深い伊勢名物グルメを味わい、美食の伊勢を舌で感じよう。濃厚でほんのり甘いタレでいただく伊勢うどんや日本一の牡蠣や伊勢エビ、そしてデザートにはお餅をぜひ味わって。

四季折々にその表情を変える伊勢は、豊かな自然の中で動植物に触れる散策をするにもぴったり。

また伊勢の地には、卓越した技術を誇る伝統工芸が現代まで脈々と受け継がれている。

伊勢の文化遺産は、その多様性、繊細さ、真正性を通して人々を魅了してやまない。昔ながらの情緒を漂わせるおはらい町の路地を歩けば、様々な種類の美しい手工芸品に出合う。伊勢根付や伊勢一刀彫に代表される、この地に根をおろす繊細な手仕事の魅力に浸ってみよう。海の栄養をふんだんに含んだ伊勢の自然塩の秘密とは？その清浄さから、かつては神々だけのために使われていた伊勢和紙とは？

豊かな自然と信仰が息づく人々の暮らし、伊勢の旅はきっと忘れられないものになる。



04

春

命の再生、桜吹雪、神道の祭りと美食……。春の光に誘われて、伊勢の魅力に出会いに行こう。

12

夏

紫に染め上げられ、涼しい自然に囲まれた伊勢の町は暑い夏を過ごすにはぴったり。田んぼアートや夏色の和菓子が待っている！

20

秋

紅葉で染められる伊勢神宮をその目にぜひ焼き付けて。紅葉狩を楽しみ、昔ながらの情緒漂う周辺地区をそぞろ歩き、美味しい秋の味覚を味わおう。

30

冬

お祭りの熱気に包まれる！冬の伊勢に温かく迎えられたら、新年を祝い、日本で一番美しい初日の出を眺めよう。絶品の伊勢うどんや冬ならではの鍋料理を食べれば、心も体も温まるはず。

40

伝統工芸

伊勢根付や伊勢一刀彫の技術に直接見て触れて、伊勢に根付く伝統工芸を学ぶ。海の栄養たっぷりの伊勢の自然塩の秘密や伊勢和紙の歴史に触れてみる。伊勢の伝統工芸の豊かさに圧倒されるはず。

春 美しき大地

暖かな春の日差しの訪れとともに、日本は多彩な色で染め上がり、地方ごとに春ならではの風物詩で競い合う。そんなこの季節こそ、定番コースから飛び出し、東京や京都だけではなく、日本の神髄を肌で感じることができる町へ足を延ばしてみよう。春の日差しに誘われるまま、珠玉の伊勢に会いに行こう。

恋の季節である春は、この地で特別な意味をもつ。一風変わったカップル、夫婦岩にぜひ会いに行ってみよう。太平洋に面した伊勢湾に立つこの二つの岩は、神道における神々を生み出した夫婦を象徴している。神道は自然信仰の宗教で、日本史の始まりにまでさかのぼる。大きい岩が男神イザナギを、小さい岩が女神イザナミを象徴していると言われている。夫婦は、2つの岩の頂をつなぐ、注連縄と呼ばれる藁を編んで作られた神聖な長い縄で象徴的に結ばれている。厳しい天候や波しぶきによって切れることがあるので、注連縄は毎年新しいものに張り替えられる。こうして毎年春に目にする事ができる、古くから続く珍しい神事「大注連縄張神事」が生まれた。神事では、夫婦岩をお祀りしている二見興玉神社で新しい大注連縄が清められ、奉仕青年により夫婦岩まで運ばれる。奉仕青年が海の中を進み、新しい五本の注連縄を張っていく。6月には、夫婦岩の間から朝日がのぼる幻想的なショーを見ることができる。カップルでも、一人でも見逃せない壮大な瞬間だ。

夫婦岩

“WEDDED ROCKS” (MEOTO IWA)

全国から多くの人々が訪れる、二見浦の二見興玉神社そばに立つ注連縄で固く結ばれた二つの岩。

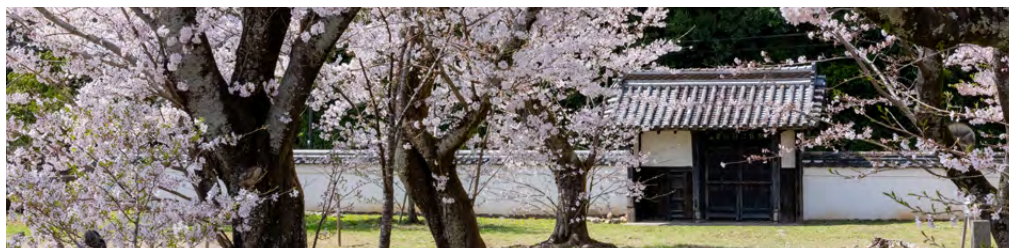


春の日差しに誘われるまま、 珠玉の伊勢に会いに行こう。

神事の参加者誰もが、赤い太陽が描かれた白装束を着ているのにお気づきになっただろうか。日本の国旗にも描かれているこのシンボルは、大きい方の岩イザナギの娘で太陽の女神である天照大御神を象徴している。天照大御神は皇室に三種の神器を授けたと伝えられ、そのうちの八咫鏡は伊勢神宮の内宮にお祀りされている。



命の再生を肌で感じるのに、春はうってつけの季節。全国各地で人々はお花見をして冬の終わりを祝う。自然の宝庫と言える伊勢では、杉林の鮮やかな緑が、桜の薄い桃色と混ざり合う。この季節だけの桜吹雪を求めている人には、外宮に隣接する旧豊宮崎文庫がおすすめ。伊勢の桜絶景スポットのひとつだ。3月末から4月上旬に五十鈴川堤で行われる桜まつりでは、舗装された堤で雰囲気のある散策を楽しめる。ハイライトは、幻想的な雰囲気に包まれる夜のイルミネーションだ。



最後に、伊勢神宮の春の神楽祭の神聖な舞である「神楽」は一見の価値あり。境内に設けられた舞台の上で、胡蝶を模した衣装をまとった可愛い少女が、神々の恩恵に感謝の意を表し、春の再生を祝福し舞う姿は見る者を圧倒する。



おはらい町 OHARAI-MACHI STREET

食べ歩きが楽しめるこの通りには、この地ならではの味を楽しめるお店や、工芸品を扱うショップが並び、文化的経験に出合える。





伊勢が

織りなす味

和菓子と・・・

桜のやわらかな桃色は、伊勢名物の中にも表される。とろけるようなこし餡を、繊細に桃色に色付けされた餅が包んだ「くうや茶屋餅」をぜひ味わってみて。目にも舌にもごちそうとは、まさにこのこと。

伝統

さらに、それを味わう場所もユニークだ。雰囲気のある小さなエリア「おかげ横丁」は、伝統的な日本家屋で構成され、職人の手仕事品を扱うお店や屋台などが連なる。時間が止まったような魅力的な町、伊勢の暖かな春の日差しのもとに昔ながらの日本にワープしてしまう、グルメな休息になるはず。

夏 藍色を歩く

夏は伊勢にまばゆく輝く藍色の宝石をもたらす。桜の花吹雪は、青やピンク、紫色の花びらが美しい紫陽花に場所をゆずる。そんな紫陽花の語源は、小さな青い花が集まって咲く様子に由来するという。

六月の紫陽花の花は、白と紫の花をつける菖蒲とともに、梅雨の到来と夏の始まりを表す。

幻想的な情緒あふれるそぞろ歩きをするのに理想的な季節だ。「せんぐう館」のほとりにある勾玉池の瑞々しい景色は、大切な人との散策にぴったりの場所だ。美しい「二見しょうぶロマンの森」を恋人と歩けば、菖蒲の花が紫陽花に沿って咲き誇り、花々の鮮やかなインディゴブルーに心がリフレッシュされるはず。

夏に特徴的な色調といえる青と紫は、伊勢の和菓子においても見ることができる。明治初年に創業した和菓子店「藤屋窓月堂」では、鮮やかな夏色の和菓子を味わうことができる。「和菓子は文化であり、生活にゆとりとうるおいをもたらすものである」と考えるこの和菓子店では、色、形、味にこだわって真心を込めて日々お菓子を製造している。

のどかな散策を続け、朝熊山まで足をのばしてみよう。そこには、荘厳な美しさを誇る金剛證寺がある。あたりは広大な森がつつみ、夏には蓮の花に囲まれるこのお寺は日本の精神性(そして夏の涼しさ)を求めている人にぴったりの場所だ。

苔におおわれた石畳の階段を上り仁王門をくぐりぬけると色鮮やかな蓮が咲く池が見えてくる。池の中には愛らしく泳ぐ鯉の姿が。池には、美しい朱色の半月形の橋がかかっている。この鮮やかな朱色は、虚空蔵菩薩を祀った本堂全体をも彩っている。

時が止まったようなひと時を過ごした後は、電車のスピードにゆられて伊勢の景色を楽しもう。夏の花々の美しさに加えて、伊勢の田んぼの美しさにも浸ることができる。

鮮やかに彩られる自然

温暖な気候の伊勢を歩けば、深紫や瑠璃、翠緑、太陽のように輝く黄金色に出合えるスポットが。



美しく咲き誇る 金剛證寺の睡蓮

夏、金剛證寺の静寂に包まれた池では、清らかさの象徴である睡蓮の花が朝早くにその眠りから目を覚ます。その瞬間を心に刻み、心ゆくまで味わおう。



5月に猿田彦神社で行われる御田祭に参加することで、お米がどれほど重要なのかを知ることができるはず。このお祭りでは、伝統的な衣装を身に着けた人々が神聖な踊りを舞う。

伊勢の田んぼにまつわる旅は、田んぼアートへと続く。これは田んぼを巨大なアート作品に変えてしまうプロジェクトだ。地面にキャンバスを描き、作品に様々な色を与えるために異なる種類のお米を植える。他では見ることのできないオープンエアミュージアムを目撃するご用意を！

夏の伊勢に圧倒され、心躍ること間違いない！

猿田彦神社御田祭

RICE PLANTING FESTIVAL AT SARUTAHIKO SHRINE

伝統的な神道の神事は毎年、古来よりの伝統に従い5月5日に執り行われる。



「神社で見る驚くべき伝統的な体験、自然とスピリチュアリティの融合」



夜を 彩る色

夜の帳が下りるとき・・・

伊勢の夜に瞬く間に広がる美しい色のパレットを通して、伊勢の町を散策してみよう。夜は時には、昼間よりも活気をおび、それを彩る色彩もずっと鮮やかになる。

太陽が姿を消したら、居酒屋のネオンライトのまばゆい光のもと伊勢の町は姿を変える。居酒屋の和気あいあいとした雰囲気は、伊勢のナイトカルチャーに浸かるにはもってこいだ。

肩の力を抜いて、楽しもう。数ある伊勢の居酒屋に入って美味しい食事を楽しむのが一番。そのうちのある居酒屋では、絶品の鯛をナスの田楽とともに味わうことができる。料理のおともに日本酒も忘れずに。美しき伊勢の夜、ここにあり！

秋 伊勢の朱色の空に響く調べ

秋の訪れ。木々は金色や橙色、赤色へと姿を変える。枝を離れた葉は地面におりたつ。こうして、しっとりと秋の香りを漂わせる絨毯に地面は覆われていく。さあ、伊勢の美しい紅葉祭りを楽しむときがやって来た。

緋色に彩られた伊勢の木々や公園、森はその風景を全く変えてしまう。この自然現象は「紅葉」と呼ばれ、この地では特別な感情を引き起こす。時計の針が止まったかのように、じっと瞑想にふけるとき。それは、「紅葉は我々に命のはかなさを思い出させてくれる」という仏教の教えや「自然には神々が宿っており、紅葉は神々が人前に現れた姿」という神道の信仰を思い起こさせる。伊勢神宮は、伊勢の秋色の万華鏡を楽しむうってつけの舞台だ。燃えるように赤い鯉の金色の輝きが、落ち葉が漂う水面にきらきらと反射する。五十鈴川にかかる内宮の宇治橋に立てば、この景色をゆっくりと楽しむことができる。伊勢では水は神聖なもの。その清らかさによって、伊勢の人々に、実りの多い収穫と神々の守護がもたらされる。伊勢神宮では古くから、神聖な五十鈴川の御手洗場に立ちその水で身を清める慣わしがある。

伊勢の水の精神性にふれた後は、伊勢志摩スカイランのドライブで美しい自然を楽しもう。この秋の壮大な絵画を描き出す植物を代表的するのは、紅葉や銀杏だ。



伊勢神宮のすぐそばにあるおかげ横丁で散策を続けよう。ここはそぞろ歩きをするのにぴったり。地元グルメの名店や伊勢土産を扱うお店が軒を連ね、お土産探しをしながら地元の美味しい料理を試すことができる。伊勢の名産品赤福餅を味わった後は、あちこちのお店で売られているかわいらしい犬のグッズを物色だ。江戸時代、伊勢神宮に参拝できなかった人はその代わりに自身の飼い犬を送り参拝させた。この「おかげ犬」は今や、伊勢の人気のマスコットになっている。

昔ながらの伊勢の路地をけば、
そこは江戸時代





一風変わったエリアで散策を続けよう。伊勢の中心部を流れる勢田川沿いに位置する河崎エリアだ。当時の風情を残す町屋や蔵が改装され、手作りのグッズを扱うショップや食品店、カフェやレストランを楽しめる。

このエリアは江戸時代(1603年-1868年)にその繁栄を極める。勢田川沿いかつ伊勢神宮が近いという立地のおかげで、河崎は問屋街として栄えた。当時、主に米や酒、砂糖、塩といった数十キログラムにも及ぶ物資は舟で運ばれ、川岸に並ぶ蔵に舟から直接積み下ろされた。河崎は"伊勢の台所"として名をはせた。現在でも当時をしのばせる外観をとどめる「切妻妻入り」の建物が通りに並ぶ。これは伊勢河崎の特徴で三角の切妻屋根に、神社仏閣の装飾に使われる鬼瓦が輝く。

伊勢河崎商人館

ISEKAWASAKI MERCHANT MUSEUM

商人館には、この地区の歴史と文化について知ることができる資料を展示した「まちなみ館」やこの地の商家のつくりを残した和室、庭、茶室がある。



「徒歩でも自転車でも、このエリアは秋の散策にぴったり。蔵が改装されたギャラリーやショップを楽しもう。」



ここまで散策を続けたらお腹がすいてくるはず。美味しいお昼ご飯にぜひ訪れてほしい名店を見つけておいたので、さっそく行ってみよう。極上の磯の香がただよう海の幸とお寿司が楽しめる「割烹 大喜」だ。「伊勢海老定食」や「あわび定食」にぜひトライしてみ。乾いた喉を潤すには、「ふくら雀」の冷酒がおすすめ。

グルメなお昼休憩で食欲は満たされたけど、好奇心はまだ満たされない？それなら、江戸時代の酒問屋を修復整備して作られた「伊勢河崎商人館」をぜひ訪れてみてほしい。伊勢の町の歴史を貴重な物や書物を通して学ぶことができ、日本紙幣の元祖と言われている「山田羽書」のオリジナルや1909年にこの地で生まれた「エスサイダー」復刻版を味わうことができる。商人館では企画展も行われているので、プログラムにぜひ目を通してしてほしい。





秋祭り

熱気と・・・

この季節に伊勢を訪れるなら、神領民の伝統を受け継ぎ新穀の収穫を祝う初穂曳は絶対に見逃せない。
初穂曳では、その年に収穫された初穂が伊勢神宮に奉納される。陸曳は、初穂を飾り米俵を高く積んだ奉曳車を町衆たちが曳く。「エンヤ!エンヤ!」のかけ声に合わせて、その年の新穀を伊勢神宮に運び、神に奉納する。

歓喜

初穂曳は二十年に一度、式年遷宮の際に内宮と外宮それぞれに神殿のご用材を運び入れる「お木曳行事」、神殿の敷地に敷き詰める白石を奉納する「お白石持行事」、二つの民俗行事を次の世代へと伝えていきたいという思いから始まったと言われている。伊勢神宮が鎮座する伊勢の町の人々の魂を映した、力強く壮大なお祭りだ。

冬 寒さと美しさ

祝福のとき

伊勢の人々の温かさでこの地の忘れられないお祭りで、心も体も温めよう！

伊勢の大地は、なかなか見ることのできない繊細なフロストフラワーで美しく彩られる。冬の柔らかな太陽の光が伊勢ののどかな風景を照らしだす。冬がやってきた。そして、少しずつ、お祭りの楽しげでエネルギーに満ちあふれた雰囲気町が町を包み込んでいく。

冬の伊勢では、日本で最も神々しい日の出を見ることができる。

帽子とマフラーをお供に、夫婦岩が生み出す素晴らしい景色をその目に焼き付けよう。夜明け、空が白くなり、星々が一つまた一つと消えていくと、目が覚めるようなピンク色の雲が空に浮かび、やわらかな光に包まれる。朝の光は太陽の燃えるような赤に場所をゆずり、伊勢の空を染めていく。冬の寒い時期には、夫婦岩で夕暮れの美しさを楽しむこともできる。冬至には2つの岩の間に月が輝き、情緒的な美しさが一層際立つ。

一年のこの時期には、もう一つ知的好奇心をくすぐるイベントがある。12月の海の寒さに立ち向かう勇気のある人は、夫婦岩の神聖な注連縄を張り替える大注連縄張神事をぜひ見てほしい。

さらに他の二つの日の出もおすすめだ。

年末年始の期間、一日中開放されている伊勢神宮の散策から始めよう。冬の期間のみ、朝日が宇治橋の前にたつ鳥居のちょうど上にのぼるという、見逃すことができないショーに立ち会おう。

もう一つの日の出を見るには、伊勢志摩スカイラインを通して朝熊山頂展望台まで行ってみよう。大晦日の夜は終夜営業しているこの観光道路は山々の中を走りながら伊勢市と鳥羽市を結ぶ。初日の出を見るために多くの日本人がこのスポットまでやって来る。

ここから年賀状を送ってみるのはいかが？朝熊山頂展望台には郵便箱"天空のポスト"がある。いつもとは違う新年の挨拶なんて粋じゃないか。



おかげ横丁での冬の散策を続けよう。「冬至いとこ煮」をぜひ食べてみてほしい。南瓜と小豆と一緒に煮た料理で、無料でふるまわれる。冬至に食べると一年病気にかからないと言われている。

年末には、おかげ横丁で歳の市が開催され、注連縄作り教室やお餅つき大会など様々なイベントを楽しむことができる。新年に向けた正月飾りを求めるにも困ることはない。精巧に作られた伊勢の木彫り工芸品もここで購入できる。喜ばれること間違いなし、伊勢土産のひとつだ。



宇治橋

UJIBASHI BRIDGE

檜で作られた橋が伊勢の神秘的な世界への入り口を象徴する。この宇治橋は20年ごとに建て替えられる。



森の霊に導かれ 新たな旅が始まる

おかげ横丁の歳の市を楽しんだ後は、軽い運動に挑戦してみよう。毎年12月、「伊勢の森」トレイルランニングレースが伊勢の森で開催される。全長20キロメートルのコースを通して、この地域の動植物に触れ、和気あいあいとした雰囲気のエコフレンドリーなイベントを体験できる。



いつまでも記憶に残る祭り：躍動感あふれる舞や踊り、燃え上がる松明、人々の暖かさ、そして活気。御頭神事は、寒い冬を吹き飛ばすにはぴったり！

2月に高向区で行われる御頭神事に、ぜひ足を運んでみて。笛などの神楽を担う神楽衆の演奏に合わせて、獅子頭をかぶった二人一組の青年が踊る「七起こしの舞」は見てたえたり。舞で使われる獅子頭は30kg近い重量があり、角がはえた、ライオンに似た伝説上の生き物の頭部を表した、黒または赤のお面が特徴的だ。太鼓の音と囃子の音色に合わせたこの舞の後には、盛大な火祭や生命の誕生にまつわる幻想的な神事が続く。この神事は高向大社で行われ、その後獅子が高向区内の家々をまわり、悪病を防ぎ、邪気払いをする「布久目物」が続く。





冬の

暖かさ

体を動かした後には・・・

日本の冬と言ったら、国民的な冬を代表する料理、鍋を楽しまないわけにはいかない！1922年創業の伊勢で有名な料亭「魚勘」にぜひ立ち寄ってほしい。冬季限定の「ぼたん鍋」が待っている。猪肉を用いた鍋で風味豊かな味噌仕立て。これを食べれば体は温まり、気力も回復、新鮮で爽快な伊勢の空気のもと、冬の散策を続けよう！

ほっと一息！

この地方のもう一つの代表的な料理も体を温めてくれること間違いなし。そう、伊勢うどんだ。でも、伊勢うどんをそこまで美味しくさせている要素とは一体？典型的な伊勢うどんはとてもシンプル。柔らかく煮たうどん麺は、特徴的な柔らかさを生み出すために1時間以上かけて煮られ、たまり醤油をベースとしたほんのり甘いタレに絡め、ネギをのせていただく。準備が簡単で軽い食べ口の伊勢うどんは、伊勢の散策中に小腹がすいたときにぴったりだ。

伊勢の伝統工芸 この地に根付く素晴らしい 文化遺産

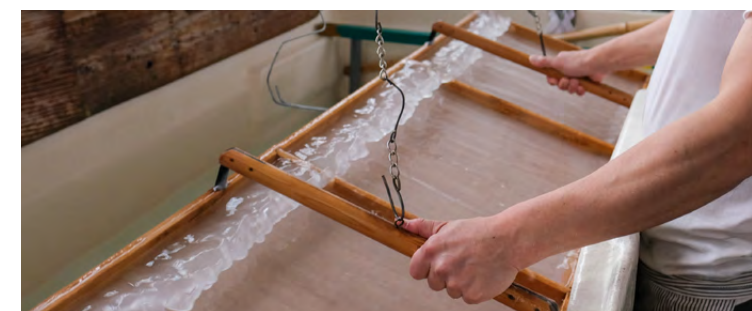
伝統工芸が盛んな伊勢の地で、
熟練職人の方々に話を伺った。
和紙、根付、伊勢一刀彫、そして
伊勢の塩まで…
その歴史にふれる旅に出かけよう。



伊勢和紙 - 大豊和紙 工業 Ise Washi - TAIHOU Washi Kougyou

1899年に創立した大豊和紙工業は、「三重県指定伝統工芸品」に認定されており、この地ならではの伊勢和紙を製造している。今日における伊勢和紙は、およそ150年前から作られてきた。コウゾなどの長い繊維をからめて和紙を漉いていく。伊勢和紙の特徴は、その製造工程にある。コウゾだけでなく、ミツマタ、ガンピなどを原料とし、清浄な和紙を製造し、厳しい検査を経て伊勢神宮など寺社のお神札用紙として使用されている。

伝統的な手法と現代技術を組み合わせることで、大豊和紙工業はインクジェットプリント対応の和紙を製造している。大豊和紙工業の工場は事前予約により見学可能。伊勢和紙を使った製品を扱うショップ(伊勢和紙館)の他に、伊勢和紙ギャラリーがある。



伊勢根付彫刻館 Ise Netsuke Choukoku Kan

「三重県の伝統工芸品」である"伊勢根付"はとても小さな木製のオブジェに彫刻を施したものだ。

根付は、伝統的な日本の装身具で、日本人がポケットの備わっていない着物を着ていた時代に生まれた。根付を帯に引っ掛けることで、日常的に使う小物を収納した印籠や巾着を吊るし持ち歩くことができた。根付に施される題材はバラエティに富み、使用される素材も、木、鹿の角、骨、象牙など多岐に渡る。伊勢根付の特徴は、地元の朝熊山から採れる貴重な木材「朝熊黄楊」を使用している点にある。この木は、高地の寒さに強く、やせた土壌で時間をかけて育つ。

伊勢根付には、動物や植物、お面をかたどったものなど、様々な形状があるが、伊勢一刀彫と同様、伊勢神宮のお膝元で発展したことがその形状に影響を与えている。

伊勢根付では、幸せを象徴する干支の動物や、なんとカエルをかたどったものが作られている。歴史的に、根付は伊勢神宮を訪れる参拝者が自宅に持ち帰る人気の土産物の一つであり、中でも「無事に帰る」ことからカエルは縁起が良いとされる。その根付を買うことで、故郷まで安全に帰ることを祈願した。

伊勢市上地町には、伊勢根付に関する美術館、伊勢根付彫刻館がある。館長である中川忠峰氏は、伊勢根付に魅せられて40年の熟練の根付師。彫刻館では氏の作品約80点が展示され、根付が完成するまでの工程を見学することができる。



伊勢一刀彫 - 岸川行輝 Ise Ittobori Sculpture - Yukiteru KISHIKAWA

「三重県の伝統工芸品」として指定されている伊勢一刀彫は、伊勢市で生産されている木彫り作品の一種。"伊勢一刀彫"は、伊勢神宮の宮大工によって生まれたと言われている。神宮は20年ごとに造り替えられる伝統があり、そこで出てきた廃材を使って縁起物を彫っていたのだ。一刀彫では、神々や干支の動物など、幸運を呼ぶモチーフが彫られてきた。彫刻師岸川行輝氏の作品においてそれらはよく表されている。師が頻繁に取り上げる題材の中には、干支の様々な動物、さらには雄鶏がある。というのも、雄鶏は天照大御神の神使とされ、伊勢神宮と深いかわりがあるからだ。

さらに、カエルも重要なモチーフだ。「帰る」と語呂合わせになっており、無事に家まで帰れるようにと験を担いでいる。一刀彫の粗く磨かれていない表面に驚くかもしれないが、その名が示す通り、この伝統工芸の特徴は、一刀で刻みあげたように彫り、作品に魂を吹き込むところにある。彫師である岸川氏の作品は、伊勢市岡本町の「伊勢宮忠」本店で購入できる。



岩戸の塩工房 Iwato Salt Factory

岩戸の塩工房は、添加物を一切使用せず、海水のみを原材料とした、家庭用の天然海塩を製造している。

日本では伝統的に、神道の神々に米や水とともに塩をお供える。御塩は神々へのお供え物として使われるだけでなく、儀式や祝祭の前に場を清めるためにまかれ、塩は非常に重要な役割を担っている。儀式の際に使われるのに加えて、日本の神話において塩は身を清めることができると信じられている。人々の健康に欠かせない海の栄養分をふんだんに含んでいる伊勢の塩はまさにそうと言えるだろう。

この海塩は、山からの新鮮な水と砂浜で浄化された海水が交わる伊勢湾の入口に位置する二見浦の満ち潮をくみ上げて作られる。そして職人の手によって伝統的な工程で塩を抽出していく。つまり、薪で温められた鉄製の窯で15時間から20時間かけて結晶化させる。

2020年に百木良太氏によって設立された岩戸の塩工房だが、その歴史はより古く1996年前後に、実家の旅館岩戸館を営む百木氏の母が体を壊した家族の体質改善のために二見浦の海水から塩を作り始めたのが始まり。この塩の有益な特性が発見されたのは全くの偶然だったのだ。岩戸の塩工房の商品は、同社のホームページか工房のすぐ隣にあるお店で購入可能だ。



THE STUDY OF ISE

日本の精神性にふれる

伊勢市発行



伊勢市

XPJP製作



EXPERIENCE DESIGN IN JAPAN

デザイン・コンテンツ GOKAN株式会社

G O K A N